

新時代の女性を描いた画家・丹羽阿樹子

ハイヒールにワンピース姿の女性が弓を構えて矢を射る。振袖を着た女性がゴルフに興じる。いずれも日本画家・丹羽阿樹子（1900-1988）が昭和初期に描いた内容です。丹羽は上村松園（1875-1949）に師事した後、松園のすすめでにしやますいしろう（しうこうしゃ西山翠嶂（1879-1958）の画塾・青甲社に入門。1930（昭和5）年の第11回帝展で官展デビューを飾ります。1945（昭和20）年に病でやむなく作家活動は中断され、短い活動期間のため画家としての知名度は高くありません。しかし、女性の社会進出の目覚ましい時代を画家として生きた丹羽の作品は、当時の流行・世相と共に若く活発な女性像が描かれ、また、等身大ほどの大きなスケールで表され、新時代の躍動感を写し取ったようなエネルギーに満ちています。

1935（昭和10）年の第1回市展（京都市美術館）に出品された《遠矢》（No25）は、丹羽の代表作にあたります。女性は、花柄模様の黄色地と臙脂色の切り返しが独特なハイウエストのワンピースを身に付け、ストラップ付きのハイヒールを履き、「断髪」*1に「パーマネント」*2という当時最先端のヘアスタイルをしています。蝶が舞い、タンポポやスミレの咲く春爛漫な野原に都会的な装いの女性が居る違和感もさながら、その手には身体を覆うほどの大きな弓を構えています。洋装の女性が日本古来の弓術を行うというギャップに驚きますが、ルージュを引いた唇を固く結び、射る矢の先を見据えた真剣な眼差しからは新しい時代を生きる自立した女性の強い意志を感じさせます。

同時期に描かれた《ゴルフ》（No2）は《遠矢》とは逆に西洋発祥のスポーツをする和装女性という図です。ここでの「ゴルフ」とは、障害物が置かれた小さなコースをパターのみでプレイする「ミニゴルフ」や「パターゴルフ」と呼ばれるもので、ホテルなどのバルコニーに設置された手軽な遊技場ではないかと考えられます。日本のゴルフ場は、1901（明治34）年に神戸の六甲山に完成したのが最初であ



丹羽阿樹子《遠矢》1935（昭和10）年



丹羽阿樹子《ゴルフ》昭和初期

り、当初は上流階級の娯楽だったものが昭和に入って大衆化が進み、安価で気軽に楽しめるものに広がりつつあったようです。ここではコース上の障害物としてミニチュアの太鼓橋や灯籠などが日本庭園風に飾られ、奇妙にも調和した和洋折衷のコースが完成しています。女性は浅葱色の振袖に帯を胸高に締め、ウェーブヘアを結ってまとめた流行りのヘアスタイルにお化粧もしています。国が洋装化を推奨していた時代でしたが女性の洋装普及率は低く、しかし流行りの髪型や化粧を通じてオシャレを楽しむ若い女性は多かったようです。急速な近代化が進み、繁栄したこの時代でしか見られない光景を、リアルに捉えた一作です。

*1 大正後期に流行したボブスタイルの髪型。
*2 昭和初期に普及したウェーブヘア。
(当館学芸員 大森奈津子)

簡潔な造形に込められた静かな闘志

津田信夫《英雄闘志 鑄銅軍鶏置物》1934（昭和9）年

まっすぐに伸びた首、鋭い眼差し、食い込まんばかりに踏みしめられた足―闘鶏用の品種である軍鶏のしなやかで力強い体躯とその凜とした立ち姿からは、内に秘めた静かな闘志が感じられます。作者の津田信夫（1875-1946）は1923（大正12）年から金工研究のために欧米各地に留学し、1925（大正14）年にはパリ万国装飾美術工芸博覧会（アール・デコ博）の国際審査員も務めた作家です。羽や尾に見られる簡略化された造形には、当時ヨーロッパで流行していたアール・デコ様式が反映されています。

津田はアール・デコ博の年に帰国した後、若い金工家に向けて西洋の工芸の新しい潮流を説きました。津田の教えを受けた金工家・高村豊周（1890-1972）を中心に結成された工芸団体「无型」は、これまで芸術的な観点から評価されていなかった工芸に対する意識を変えるための活動を展開する中で、西洋の動向を取り入れた作品制作を行い、旧態依然とした国内の工芸を打破する一翼を担いました。彼らの活動は1927（昭和2）年の第8回帝展にて美術工芸部門が新設されるという大きな動きに繋がっていきます。津田に刺激された若い作家たちの熱い意欲が、日本の工芸界の革新を推し進めたのです。
(当館学芸補助 影山侑恵)



コレクションルーム 春期

特集 魅惑の昭和モダン

2023年3月10日〔金〕― 6月18日〔日〕 本館 南回廊1階

出品作品リスト

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展
春の名品								
1	日－223	菊池芳文	文久2－大7	春の夕・霜の朝	明治36年	絹本着色 屏風 八曲一双	各158.5×485.0	第5回内国勲業博覧会 （大阪）

*都合により、出品作品を変更することがございます。あしからずご了承下さい。
*リスト掲載順と展示順は必ずしも一致しません。

特集展示：魅惑の昭和モダン

2	日－1028	丹羽阿樹子	明33－昭和63	〔ゴルフ〕	昭和初期	絹本着色 額	195.8×151.0	
---	--------	-------	----------	-------	------	--------	-------------	--

新時代を彩る人々

3	日－647	梶原緋佐子	明29－昭和63	帰郷	大正7年頃	絹本着色 額	205.0×84.5	
4	日－003	中村大三郎	明31－昭和22	ピアノ	大正15年	絹本着色 屏風 四曲一隻	164.5×302.0	第7回帝展
5	日－597	西山英雄	明44－平1	春雨	昭和9年	紙本着色 額	123.0×141.0	大礼記念京都美術館展
6	日－021	菊池契月	明12－昭和30	散策	昭和9年	絹本着色 額	173.0×173.5	第15回帝展
7	日－018	太田聰雨	明29－昭和33	種痘	昭和9年	紙本着色 額	199.5×119.0	第21回院展
8	日－025	池田遙邨	明28－昭和63	雨の大阪	昭和10年	絹本着色 額	130.0×202.0	第1回市展（京都市買上）
9	日－044	橋本明治	明37－平3	浄心	昭和12年	絹本着色 額	290.0×173.0	第1回新文展
10	日－1029	丹羽阿樹子	明33－昭和63	〔夕涼み〕	昭和初期	絹本着色 額	193.0×115.5	
11	洋－005	三上知治	明19－昭和49	室内	昭和9年	油彩 キャンバス 額	51.5×63.5	大礼記念京都美術館展
12	洋－020	光安浩行	明24－昭和45	女三人	昭和11年	油彩 キャンバス 額	161.0×226.0	昭和11年文展鑑査展
13	洋－021	市ノ木慶治	明24－昭和44	或る日の画室	昭和11年	油彩 キャンバス 額	191.0×161.5	昭和11年文展鑑査展
14	洋－135	森脇 忠	明21－昭和24	骨牌	昭和12年	油彩 キャンバス 額	151.0×181.0	第1回新文展
15	洋－035	南 政善	明41－昭和51	赤いちよつき	昭和14年	油彩 キャンバス 額	115.0×89.0	第3回新文展
16	洋－189	飯田清毅	明42－昭和47	水辺	昭和14年	油彩 キャンバス 額	120.0×160.0	
17	洋－039	木下孝則	明27－昭和48	少女読書	昭和15年	油彩 キャンバス 額	59.5×49.0	第5回市展
18	洋－295	中嶋清一	大6－昭和63	鈴蘭燈	昭和18年	油彩 キャンバス 額	90.9×116.7	第8回市展
19	洋－461	服部喜三	明26－昭和53	燈火管制	昭和18年	油彩 キャンバス 額	116.4×80.0	第8回市展

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展
私たちは「モガ」								
20	日－1074	若松 緑	明38－昭8	少女	昭和5年	絹本着色 額	72.3×63.7	第6回菊池塾展
21	日－046	勝田 哲	明29－昭55	朝	昭和8年	絹本着色 額	166.0×180.0	第14回帝展
22	日－146	菊池契月	明12－昭30	友禅の少女	昭和8年	絹本着色 額	152.0×88.0	第9回菊池塾展
23	日－931	由里本景子	明39－平12	単衣のおとめ	昭和8年	絹本着色 額	175.0×120.0	第14回帝展
24	日－014	菊池隆志	明44－昭57	少憩	昭和9年	紙本着色 額	132.0×107.0	大礼記念京都美術館展
25	日－1020	丹羽阿樹子	明33－昭63	遠矢	昭和10年	絹本着色 額	219.0×150.0	第1回市展
26	日－105	秋野不矩	明41－平13	紅裳	昭和13年	紙本着色 額	208.0×174.0	第2回新文展（特選）
27	日－1073	由里本景子	明39－平12	望遠鏡	昭和15年	絹本着色 額	228.0×176.0	第3回市展
28	日－1067	西 綾女	明36－平1	襟巻の女（自画像）	昭和15年	絹本着色 額	42.5×36.9	
29	日－1066	中川伊作	明32－平12	婦人像	昭和初期	絹本着色 額	38.0×42.4	
工芸のモダニズム 金工と陶磁								
30	工－002	津田信夫	明8－昭21	英雄闘志 銅軍鶏置物	昭和9年	鍍金 青銅	55.0×16.0×27.0	大礼記念京都美術館展
31	工－017	豊田勝秋	明30－昭47	秋晴鍍銅花器	昭和11年	鍍金 青銅	40.0×32.5×16.5	昭和11年文展招待展
32	工－520	沼田一雅	明6－昭29	鶴香炉	昭和初期	陶器	10×26.0×12.0	
33	工－953	溝口安太郎 (八代龍文堂安之介)	明33－昭43	水精（銅製花瓶）	昭和2年	青銅 鍍金	高25.5, 胴径17.1, 直径17.5（取手含む）	第8回帝展
34	工－873	香取秀真	明7－昭29	鍍銅燭台	昭和5年	鍍金 青銅	高32.2, 径15.3	第2回聖徳太子奉讃美術展
35	工－212	森野嘉光	明32－昭62	染付草文色絵花瓶	昭和5年頃	陶器	37.9×21.2×21.2	
36	工－888	黒井光珉	明24－昭50	葉巻入	昭和7年	鉄 ガラス	13.5×21.0×21.0	
37	工－082	伊東翠壺	明27－昭55	方円菱花文花瓶	昭和9年	磁器 呉須 象嵌	高43.0, 胴径17.2	
38	工－022	山脇洋二	明40－昭57	銀龍文の亀置物	昭和13年	彫金 銀	11.0×26.0×22.5	第2回新文展
39	工－025	村越道守	明34－昭18	葉文銅花瓶	昭和15年	彫金 銅	高23.5, 胴径26.5, 口径21.0	紀元2600年奉祝展
工芸のモダニズム ^{うるし} 漆								
40	工－837	奥村霞城	明26－昭12	葡萄蒔絵二段卓	大正9－13年頃	蒔絵 木胎	76.0×36.5×35.0	
41	工－838	奥村霞城	明26－昭12	桐之実高杯	昭和4－9年頃	漆 木胎	高12.5, 直径34.0, 底径21.0	
42	工－847	徳力彦之助	明38－平8	爛翠響槩	昭和2年	蒔絵 木胎	32.6×26.2×17.3	第8回帝展
43	工－870	井田宣秋	明25－昭49	唐華紋蒔絵喰籠	昭和4年	漆 蒔絵 木	高24.5, 直径31.0	京都美術工芸品展覧会
44	工－850	平館 酋	明30－昭56	高嶺之花手篲	昭和7年	蒔絵 木胎	44.5×32.7×21.2	第13回帝展

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ (cm)	初出展
45	工－006	山崎覚太郎	明32－昭59	蝸牛宝石筆筒	昭和9年	蒔絵 彩漆 木胎	17.0×25.5×10.5	大礼記念京都美術館展
46	工－009	徳力彦之助	明38－平8	流線型的なる置時計	昭和9年	蒔絵 金唐皮 木胎	15.5×37.0×15.0	大礼記念京都美術館展
47	工－331	徳力彦之助	明38－平8	双曲線的なるラヂオセット	昭和9年	漆 木 銀	59.7×67.5×50.5	
48	工－848	徳力彦之助	明38－平8	流動する面の構想-卓	昭和9年	漆 木胎	25.6×71.0×30.2	流派派工藝研究会第1回展 (大毎会館、京都/1934年)
49	工－013	堂本漆軒	明22－昭39	花器烏瓜図	昭和10年	蒔絵 蠟漆 木胎	高37.0, 胴径13.0	第1回市展 (紅賞受賞、京都市買上)
50	工－016	番浦省吾	明34－昭57	草花図彩漆衝立	昭和11年	蒔絵 彩漆 木胎	91.0×109.0×31.0	昭和11年文展鑑査展 (選奨)
51	工－019	奥村霞城	明26－昭12	漆器鹿の図パネル	昭和12年	蒔絵 コルク 額	172.0×172.0	第1回新文展
52	工－020	^(二代) 鈴木表朔	明38－平3	漆器棚引棚	昭和12年	蒔絵 彩漆 木胎	83.5×112.5×30.5	第1回新文展

VOCA展 30周年によせて								
53	洋－795	東郷靖彦	昭43－	SPRAWL	平成9年	油彩 キャンバス 2枚組	227.3×363.0	VOCA展1997 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
54	洋－789	岡田修二	昭34－	Take #10	平成10年	油彩 キャンバス 3点組	190.0×399.0	VOCA展1998 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
55	洋－792	坂井淑恵	昭40－	明るい所	平成12年	油彩 キャンバス	181.8×227.3	VOCA展2000 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
56	洋－796	内藤絹子	昭45－	祈りの言葉1999.11	平成12年	油性顔料 布 和紙 等 3枚組	195.0×360.0	VOCA展2000 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
57	洋－787	岩城直美	昭44－	View-Barn-	平成15年	油彩 キャンバス	80.3×116.7	VOCA展2003 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
58	洋－788	岩城直美	昭44－	View-Red Roof-	平成15年	油彩 キャンバス	145.5×227.3	VOCA展2003 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
59	洋－790	小柳 裕	昭52－	ETHER -House of a back alley-	平成16年	アクリル 油彩 綿布 パネル	168.5×168.5	VOCA展2004 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
60	洋－791	小柳 裕	昭52－	ETHER -Distant lights-	平成16年	アクリル 油彩 綿布 パネル	110.0×195.6	VOCA展2004 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
61	洋－797	中川トラヲ	昭49－	風が吹いて そして すべて終わりさ	平成17年	アクリル 油彩 パネル 2枚組	227.3×340.0	VOCA展2005 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)
62	洋－784	居城純子	昭49－	N34.21.29 E135.52.13	平成17年	油彩 キャンバス 3点組	194.0×372.0	VOCA展2005 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞受賞)
63	洋－798	ロバート・ プラット	昭49－	Rendezvous	平成18年	油彩 キャンバス	183.0×230.0	VOCA展2006 (上野の森美術館、東京) (VOCA奨励賞)

進化する工芸								
64	工－374	細田あずみ	昭49－	coral * snow	平成16年	蠟緞 絹 振袖着物	183.0×149.0	2004京展 (京都市美術館賞)
65	工－759	増田晴香	昭62－	陽の下の星たち	平成29年	型染 酸性染料 絹 パネル	243.0×247.0	2016京展 (京都市美術館賞)
66	工－758	酒井沙織	昭57－	うえのほうの おしごと	平成29年	手織 ポリプロピレン糸 羊糸 綿糸 アクリル糸 化学染料	280.0×210.0	2016京展 (京都市美術館賞)
67	工－835	石塚源太	昭57－	Flatland#3	平成21年	漆 合板 縫い針 カッターの刃 ホチキス 釣り針 ワッシャー	120.0×120.0×3.0	個展「塗面の次元」 (アートスペース虹、 京都/2009年)
68	工－863	黒川 徹	昭59－	3つの胚	平成30年	黒陶	102.0×65.0×32.0	個展（ギャラリー艸居、 京都/2018年）
69	工－818	木野智史	昭62－	嵐（捻）	平成30年	磁器土	36.0×89.0×8.5	個展（ギャラリー恵風、 京都/2018年）